

## 2021年4月～8月実施状況

ICT活用	オンライン	オンデマンド	番号	ICT活用に関する研修会	ICT活用に関する内容
○			106	県立学校放課後システム操作研修会	・校務支援システムにおけるICT活用 オンライン授業実践活用等
○			108	県立学校PCリーダー研修会	
○			109	県立学校PCリーダーフォローアップ研修会	
○			110	理科・視聴覚実習助手・講師研修会	・電子黒板等利用による授業での実践演習等
○			201	小特 国語科授業力アップ研修会Ⅰ 言葉による見方・考え方を働かせた授業改善	・1人一台端末を使ったグループ討議や共同作業実施 ・画面カメラの活用による作品共有
○			203	小特 国語科授業づくり研修会 学力調査結果を踏まえた授業改善	
○	○		208	中高特 国語科事例に学ぶ授業づくり研修会 実践例から学ぶ魅力ある授業づくり	
○			212	小 社会科 授業力アップ研修会Ⅰ 実践事例を通しての演習	・1人一台端末を使ったグループ討議や共同作業実施 ・地図ソフトを使った実践事例の紹介
○			214	中 社会科授業力アップ研修会Ⅱ 実践事例を通しての演習	
○		○	215	高 地歴・公民科 授業づくり研修会Ⅲ 学習指導要領に基づく授業づくりの理論と演習	
○		○	216	高 地歴・公民科 授業力アップ研修会Ⅲ 実践事例を通しての演習	
○			221	小特 算数科授業づくり研修会Ⅰ 学習指導要領に基づく授業づくりの工夫と改善	・教材ソフト「ジオジェブラ」を用いたグラフ・図形作成及び 動的変形等による探究活動の実践
○			222	小特 算数科授業力アップ研修会Ⅰ 活用力を問う問題作成を通しての授業改善	・1人一台端末を活用した授業実践の紹介
○	○		223	中高特 数学科授業づくり研修会Ⅱ	
○	○		224	中高特 数学科授業力アップ研修会Ⅱ	
○			225	中高特 数学科ICT活用研修会	
○			231	小 理科授業づくり研修会Ⅰ(小学校経験3年目教員必修) 基礎実験・観察を学ぶ【YeL必須】	・1人一台端末を活用した授業実践の紹介 ・理科実験、観察指導に於けるICT活用実践紹介
○			232	中高 理科授業づくり研修会Ⅱ	
○			235	小特 理科授業力アップ研修会Ⅱ 観察・実験実践例から学ぶ	
○			236	中高特 理科実験・ICT活用指導力アップ研修会Ⅲ 実験・ICT活用を通じた授業改善	
○			237	小特 生活科授業づくり研修会 学習指導要領に基づく授業づくりの工夫と改善	・生活科に於ける1人一台端末の活用実践事例紹介
○			242	小中特 音楽科実技研修会Ⅱ リコーダーの指導と実践	・リコーダー指導用ソフトの紹介および実践
○	○		243	小特 音楽科授業づくり研修会 学習指導要領に基づく授業の工夫	・授業づくり、指導導入時に於けるICT活用の基礎的実践紹介
○			244	小中高 音楽科授業力アップ研修会 学習指導要領に基づく題材構成と評価	
○	○		251	小特 体育実技指導力アップ研修会Ⅰ	iPad(カメラ)を用いた体幹の動き等の撮影、児童生徒相互による フォームチェック等を行う実践紹介
○	○		252	中高特 体育実技指導力アップ研修会Ⅱ「保健」「陸上競技」「器械運動」「球技(ネット型)」の理論と演習	・PCを用いた意見収集、共通理解等の方法紹介
○	○		253	小中高特 保健教育指導力アップ研修会	
○			257	中 技術分野情報研修会	・ネットワーク利用による双方向性コンテンツのプログラムについて 学ぶ演習等
○			258	小特 家庭科授業づくり研修会 ICTを活用した授業づくりと評価	・学習過程に於けるICTの効果的活用方法を学ぶ
○	○		271	小中高 外国語科授業づくり研修会Ⅰ 小中高外国語教育の連携	・ICT活用による授業場面の実践紹介
○	○		272	小中高特 外国語科授業づくり研修会Ⅱ CAN-DOリストに基づいた評価	・ICT活用による学習評価方法の考察等
○	○		273	小中高特 外国語科授業力アップ研修会Ⅰ テスティングとパフォーマンス評価	
○			278	小特 外国語科授業づくり研修会Ⅴ 言語活動を中心とした指導法演習	
○			286	高特 情報 授業づくり研修会 学習指導要領のポイントを踏まえた授業づくり	・ICT活用による授業づくり、他教科との横断的視点を学ぶ
○			288	探究スキル向上をねらう総合的な学習(探究)の時間研修会	・ESD,SDGsに係るICT活用、情報収集等による探究活動を学ぶ
○		○	302	個と集団の力を育む研修会 行動論の発想を集団づくりと生かす	・オンデマンドコンテンツによる支援・対応実践紹介等
○	○		312	コミュニケーション基礎研修会 子供の前向きな力を引き出す～基礎編～	
○		○	316	不登校対応研修会 背景と支援のポイントを学ぶ	
○		○	317	不登校予防研修会 不登校を予防する集団づくりを学ぶ	
○	○		502	特別支援教育指導力向上研修会Ⅱ 通常学級における特別支援教育	・LD支援対策に於けるICT活用について学ぶ
○	○		504	特別支援教育指導力向上研修会Ⅳ 特別支援教育における支援機器(教材教具・ICT)活用	・障害を持つ児童への支援機器(ICT機器)の活用実践を学ぶ。
○			611	新研究主任研修会(YeL必須)	・校内研究に於けるICT機器活用について学ぶ
○			711	小 ビジュアル言語を使ったプログラミング教育基礎研修会	プログラミングソフト実践演習
○			712	小中 ロボット型教材を使ったプログラミング教育実践研修会	プログラミングソフト実践演習
○			713	小中 電子タグを使ったプログラミング教育実践研修会Ⅰ	プログラミングソフト実践演習
○			714	中高特 電子タグを使ったプログラミング教育実践研修会Ⅱ	プログラミングソフト実践演習
○	○		715	小中高特 ICT活用指導力向上研修会Ⅰ(YeL必須)	iPad活用による授業実践、1人一台端末の利用法等紹介
○			716	高 ICT活用指導力向上研修会Ⅱ	ICT活用による授業づくり(オンライン授業実践等)
○	○		717	小中高特 ICT活用指導力向上研修会Ⅲ	特別支援教育に於けるICTの有効な活用法、指導実践
○			718	小中 ICT活用指導力推進研修会Ⅰ	ICT活用による授業実践例の紹介、授業づくりについて
○			719	高特 ICT活用推進研修会Ⅱ	クラウド有効活用による授業改善、生徒の情報活用能力の向上に資する研修会
○	○		720	ICT活用指導力推進研修会Ⅲ	1人一台端末の授業に於ける効果的活用方法
○			721	プレゼンテーションのためのソフト活用研修会	プレゼンテーションソフト活用による授業づくり
○			722	静止画・動画処理のためのソフト活用研修会	動画編集ソフトの理解および活用方法等について
○			723	校務処理のためのWord2016基礎研修会	文書作成ソフトの理解および活用方法等について
○			724	校務処理のためのExcel2016基礎研修会(YeL必須)	表計算ソフトの理解および活用方法等について
○			725	情報セキュリティ・ネットトラブル対応研修会	社会の情報化に伴う情報セキュリティ・ネットトラブル対応について
○			741	人権教育研修会Ⅰ 学校における人権教育	人権教育に於けるICTの理解および活用方法等について
○	○		801	養 救急処置研修会	救急処置に関する機器活用について学ぶ
○			1115	小・初任研 教科指導法Ⅰ 授業でのICTの活用 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			1215	中・初任研 教科指導法Ⅰ 授業でのICTの活用 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			1315	高・初任研 教科指導法Ⅰ 授業でのICTの活用 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			1415	特・初任研 教科指導法Ⅰ 授業でのICTの活用 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			1515	養・初任研 養護教諭専門5・6 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			1615	栄・初任研 栄養教諭専門5・6 宿泊研事前Ⅰ研修会	ICTの理解および活用方法等について
○			4005	リーダー研修 教務の仕事について学ぶ研修会(YeL必須)	ICT活用によるオンライン授業実践例紹介等

## 2021年9月以降実施予定

ICT活用	オンライン	オンデマンド	研修番号	ICT活用に関する研修会	ICT活用に関する内容
○			1123	小・初任研 ICTを活用した授業実践研修会	初任者自身の授業実践報告
○			1223	中・初任研 ICTを活用した授業実践研修会	初任者自身の授業実践報告
○			1323	高・初任研 ICTを活用した授業実践研修会	初任者自身の授業実践報告
○			1423	特・初任研 ICTを活用した授業実践研修会	初任者自身の授業実践報告
○			1522	養・初任研 養護教諭専門10・11研修会	初任者自身の授業実践報告

## オンライン配信等に関わる成果と課題

## ☆オンライン・参集「併用型」研修について（特別研修Ⅰ R3/6/24 実施）

## 1 当日参加者数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	教育関係	合計
参加人数(人)	148	70	30	12	20	280
参集(人)	49	35	14	5	8	111
オンライン(人)	99	35	16	7	12	169
オンライン割合(%)	67	50	53	58	60	60

## 【成果】

- ・ オンライン、参集併用の参加形態は、講師の話を対面で直接聞きたいという、受講者ニーズにも応えることが出来た。
- ・ Microsoft teams によるオンライン実施は、事前接続テストを複数回、丁寧に行った結果、概ね良好であった。
- ・ 講義型研修については、オンラインによる実施を今後検討していく。

## 【課題】

- ・ 講師の講義資料（スライド）等を所望する意見がいくつか寄せられた。但し、講義資料等は必ず配付されるものではないことを受講者に周知し、理解を求める。
- ・ 研修システムから送るメールが受講者のところまで到達しない、センターより配信送付したデータが視聴する端末に移せない等の苦情があった。
- ・ 研修申込みの際、オンラインか参集参加かを選択できる機能をシステム追加出来るか。

## ☆オンライン実施研修について（初任研教科指導法2（小外国語） R3/8/19 実施）

## 1. 当日参加者数 136名（小学校初任者）

## 【成果】

- ・ 急遽オンライン実施となったため、参集型と内容の差異はあったが実施出来て良かった。
- ・ 現場の先生方の「働き方改革」という視点や ICT 活用運用能力の向上のためオンライン研修も選択肢のひとつとする必要がある。
- ・ 活動場面や意見交流があり双方向の場面をつくるのが、より良いオンライン研修の条件になる。 一方向型では受講者の充実感是对面よりも低くなり、オンデマンドと差異がない。難しい部分は多いが、双方向型での工夫次第で研修の質を向上できると感じた。

## 【課題点】

- ・ ネットワーク環境整備、機器の充実、使用ソフトの選定、運営人員確保が大切である。
- ・ オンライン研修を受講し、改めて参集対面型の良さを感じたという受講者も少なくない。実施形態について、研修内容や講師選定と同様に目的や教科の特性、対象者に合わせて適切なもの選択していく。（初任研においては、他の受講者との交流機会があるということが初任者にとっては非常に意義があり、かつ対面でしか得られない経験と教員同士のつながりが確実に生まれる。）

☆ オンライン・参集「併用型」研修 ～受講者アンケートより～ （○成果 ▲課題 □提案）

- オンライン参加と参集参加が「選択」できたので、会場人数に少しゆとりがありよかった。
- 参集参加を選び、直接に講師の藤井先生のお話が聞くことが出来て、とてもよかった。
- オンラインで参加出来ることは、資質向上と働き方改革の両方を実現する上で効果が大きい。  
カメラワークを含め非常に見やすかった。事前に資料をいただくと更に良いと思う。
- 初めてオンラインで研修を受講させていただいた。センターへ行くこととほぼ変わらず、講師の先生のお話や雰囲気伝わってきてとても良かった。移動時間が少なく自己の資質向上につながる今回の受講形態はとても良かった。
- YeLを予め視聴して参加したが、全体的に会場の様子もよく伝わり、実践の様子も映像や写真等で紹介していただき、大変分かりやすくて良かった。
- 動作確認等も丁寧に行っていただく中で、無事に研修を受講出来て安心した。感染症対策など大変な環境の中で、企画準備、整備等をありがとうございました。
- ▲所々映像・音声が止まってしまう、その間講師が話した内容が分からず残念だった。
- ▲資料について、オンライン参加者にも手元にいただき、講義を受けられれば有難かった。  
(講義中であっても、メール等でいただきたかった。) 画像が鮮明でない部分もあったり自分のタイミングではスクリーンが見ることが出来ず、藤井先生が用意してくださった資料を読み取るのが難しかった。
- Microsoft Teams を使いオンライン参加を試みたが接続出来なかった。Zoomの方が使いやすいように感じた。Yelでの事前視聴は問題なく行えた。
- 自校での使用端末iPadで参加を予定した。接続テストの際はiPadで入れたが、当日配付のリンクでは「iPad(モバイル)非対応」となっており入れなかった。当日と接続テストと同様の条件でリンクを付していただくと接続テストの意味があると思う。  
オンライン実施という新たな取組みでしたので、参考になればと思い意見させていただきました。
- 学校代表アドレス宛に連絡メールをいただいた。管理職が開封しデータが手元に届いたのが、当日夕方だった。1日早く送信していただくか、県立学校所属には個人アドレス宛に連絡をいただけると確実に受信できる。御一考いただきたい。
- 今後は感染症対策に限らず、オンライン研修で行えるものはそうして欲しい。

☆ 「オンライン」研修 ～受講者アンケートより～ （○成果 ▲課題 □提案）

- 自己紹介やスモールトークの場面等、ALTも一緒にやって見せていただいたことは、とても分かりやすく、やりとりを聞いたりチャットで意見交流したりと、オンラインでも参加型と同様の講義を行っていただき、実感を伴って学ぶことが出来た。今後の授業づくりの参考になりました。
- オンライン実施ではあったが、学力調査問題を解いたり実際に発音練習したり、自己紹介文を書いたりする等、アクティビティも多く、授業の構想に役立つ研修となった。
- 急遽オンライン研修となったが、何とか受講出来るようにと工夫していただき実施出来て良かった。オンラインは、どうしても一方通行の学習になりがちであるが、もし感染が拡大し自校でオンライン授業をしなければならなくなった時、どのように授業を組立てれば良いかを考えるきっかけになり有益だった。
- ▲市町村教委ネットワークのセキュリティで制限され、Wi-Fiを使いteamsにアクセス出来ない受講者が出てしまった。改善しなくてはならない。
- ▲学校業務パソコンで参加できず、自身のスマートフォンを使い参加せざるを得なくなった。電池消費も激しく途中で研修受講を中断しなければならない事態となった。
- ▲外国語研修なので本来なら話す機会がもっとあったと思う。参集できれば周りの先生方とTalk出来る場面だったと思われる。その点が残念だった。

- 直接に対面し、自己紹介等を実践してみたかった。それにより指導改善を行うことができたり、他者の良い点に気付くことが出来たりしたと思う。改めて対面でのコミュニケーション活動の必要性を感じた。
- Zoom 等の通信状態、使い勝手の良いアプリを使用してもらえれば、受講側の不安が薄れると思う。

【運営担当アンケートより】 (○成果 ▲課題 □提案)

- オンライン型研修であっても、講師や運営側の工夫次第で受講者にとり満足感のある研修を行っていただけることを実感した。(適宜、受講者に思考させたり受講者に意見を求めたりする場面を設ける、実際の活動を見せる、チャット機能での意見交流等を行うことが有益である)
- 受講者人数によって、ブレイクアウトルーム使用も有効である。但し現時点で Teams の機能上に課題が残り大人数の研修会ではブレイクアウトルーム実施はまだ安定的ではない。チャット機能を活用することが有効であることが分かり、今後活用出来ると感じている。
- 受講者側からは、今後学校でもオンライン授業などが必要になってくることを考えるとこの研修会の組立てや内容の工夫から、機器操作だけでなく、自身の教育活動での ICT 機器の活用についてもつなげて考えてもらうことができた。
- 運営側のオンライン研修を行う際のスキルアップにもつながった。

▲名前変更がスムーズに出来ないことで、出欠確認に時間を要した。大人数でカメラ ON にすると、ネットワークが不安定になってしまう課題があり、今後改善の必要性を感じている。

▲市区町村教委のネットワーク環境、セキュリティ状況により、Microsoft Teams に対応していない、あるいはネットワークが非常に不安定になってしまう。(入室が出来ない、途中で切れてしまう等)

- 本研修の実施日はセンター内で「2 研修」のみ実施であり、運営側ネットワーク環境は安定。これがさらに複数の研修で同時オンラインあるいは、ICT 機器活用研修を行うと、センター側通信状態が「不安定」になることが、考えられる。
- 「オンライン研修」を、「対面研修」と同程度に、有意義かつ充実したものとするためにはブレイクアウトルームを活用した小グループでの意見交流の場面をつくることを考えていきたい。Teams でも不可能ではないが、現時点では大人数の場合に、運営側の把握等に課題が残る。

## 初任者研修について

### 令和2・3年度の弾力的実施を通しての課題整理

#### 令和3年度初任者研修 【研修時間】

校 種	校外研修日数 (4月～翌年1月末まで)		校内研修時間 (年間で30週とする) (初任者が校内で指導される時間数)
小・中学校	一般初任者	19日	一般初任者 240時間
高等学校	教職大学院経験者	15日	教職大学院経験者 180時間
特別支援学校	期間採用経験者	13日	期間採用経験者 120時間
養護・栄養教諭	養護教諭 12日	栄養教諭 11日	

- ・採用者数が多い(令和3年度 小139名、中51名、高23名、特支26名、養護教諭14名、栄養教諭1名)ため、令和3年度より同じ内容を、対象校種を変えて2週連続で実施する「二団編成」としている。感染症予防対策とし、内容の充実(対象を絞り込み、適正な内容を組むことが可能)の点からも大変有効であった。
- ・新規採用者の状況は、新卒者から上限59歳までと年齢の幅も広くなり、背景や経験値にも差異がみられる。採用種別(教職大学院経験者と期間採用経験者)に校外研修の免除内容を決定してきたが、新学習指導要領の実施に伴い「新しい学び」の視点で研修内容や免除内容を再検討する必要がある。
- ・コロナ禍及び採用者数の増加に伴い、「宿泊研修」の実施や「実地参観研修」が困難な状況になっている。
- ・各校における「初任者研修実施に関するアンケート(管理職向け)」や「初任者研修実施に関する成果と課題についてのアンケート(拠点校指導教員向け)」の中では、「初任者研修の負担軽減」の要望が多い。校内研修時間について弾力的実施を検討している。
- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら基本的に「参集対面」で研修を実施してきた。コロナ禍の中、その時点での対応や変更をせざるを得ず、時に参集実施が中止となり、代替での実施(オンライン、オンデマンド研修)を行った。

## 初任者研修について

## 令和4年度の方向性

## 令和4年度初任者研修 【研修時間】

校 種	校外研修日数 (4月～翌年1月まで)		校内研修時間(年間で30週とする) (初任者が校内で指導される時間)
小・中学校	一般初任者	} 一律 <u>17日</u>	一般初任者 240時間
高等学校	教職大学院		教職大学院 <u>150時間</u> 週1h減
特別支援学校	期間採用経験者		期間採用経験者 <u>90時間</u> 週1h減
養護・栄養教諭	養護教諭 11日	栄養教諭 10日	

- ・本年度同様、対象校種を変えて2週連続実施による「二団編成」とする。
- ・校外研修(所属校以外での研修、主に教育センター等における参集による研修)については内容を精査し、校外研修日数を一律17日に設定する。「教職大学院経験者」「期間採用経験者」については、所属校に於ける校内研修時間において一層の弾力化を図る。
- ・校内研修時間240時間内で一般初任者は240時間、教職大学院経験者は150時間、期間採用経験者は90時間を設定し、教育センターの規定に基づく教科研修及び一般研修に取り組むと共に、それ以外をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)職場での実践を通して業務知識を身に付ける実務研修)として、校内研修時間に弾力性をもたせることで、本人の経験に基づいた研修内容の充実を図る。
- ・従前の、八ヶ岳地域で実施してきた「宿泊研修」については実施しないこととする。これにより、校外研修は令和3年に比して「-2日」となる。実地参観研修は方法を変更して実施する。
- ・令和4年度も、初任者研修の目的を踏まえ、基本的には「参集対面」で研修を実施する。内容によりオンライン、オンデマンド研修も取り入れる。

令和4年度		初任者研修計画 一覧 (案)					
山梨県総合教育センター							
回	対象	センター研修 番号	実施日	研修会名	研修内容	会場	実施機関
1	小中高特 養栄	1111	/(金)	開講式	開講式 教育監講話	総合教育 センター	総合教育 センター
				教育公務員の服務	教育公務員の服務 研修の概要オリエンテーション		
				教職としての素養	初任者としての学校運営への参画		
				学級経営	学級経営の理論と実践		
				接遇	社会人としての接遇の在り方		
2	小中高特 養栄	1112	/(金)	特別支援教育基礎	特別支援教育の現状と今後の課題	総合教育 センター	総合教育 センター
				人権教育基礎	人権教育の意義と進め方(いじめ・体罰を含む)		
				生徒指導	生徒指導の意義と進め方		
3	小中高特 養栄	1113	/(金)	特別支援教育理解	特別支援学校紹介(9校) AM	総合教育 センター	総合教育 センター
				校外学習等の引率の心構え	所属校においてYel視聴 PM	所属校	
				教育公務員の勤務と給与	所属校においてYel視聴 PM		
4	小中高特 養栄	1114	/(金)	教科指導法1	国語・算数 教科指導法(必修)	総合教育 センター	総合教育 センター
				教科指導法2	理・社・図・音・家の指導法(選択履修)		
				授業でのICTの活用	授業における情報教育機器の効果的な活用の仕方		
				情報交換会			
5	小中高特 養栄	1115	/(金)	道德教育	道德教育の意義と進め方	総合教育 センター	総合教育 センター
				キャリア教育	キャリア教育の意義と進め方		
				特別活動	特別活動の意義と進め方		
				情報交換会			
6	小中高特 養栄	1116	/(金)	学校教育相談	教育相談の意義と進め方	総合教育 センター	総合教育 センター
				健康教育 ～学校安全～	学校安全の意義と進め方		
				健康教育～保健～	保健教育の意義と進め方		
				健康教育～食育～	食育の意義と進め方		
				危機管理～情報～	情報に関する危機管理		
7	小中高特 養栄	1117	/(水)	自然観察	自然観察の意義と指導法	総合教育 センター	総合教育 センター
				総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の意義と進め方		
				ストレスマネジメント	ストレスマネジメントについて理解する		
				プログラミング	プログラミング教育の意義と進め方		
				情報交換会	4か月を振り返って・年度末にありたい自分自身の姿		
8	小中高特	1118	8/( )	教科指導法3	「小学校外国語教育」を全員受講	総合教育 センター	総合教育 センター
9	小中高特	1119	8/( )	学級経営実践	「学級経営実践」を全員受講	総合教育 センター	総合教育 センター
10	小中高特 養栄	1120	/(金)	防災教育基礎	防災教育の意義と進め方	総合教育 センター	総合教育 センター
				博学連携	博学連携の意義と進め方		
11	小中高特養	1121	/(金)	ICTを活用した授業実践	ICTを活用した授業実践発表と研究協議	総合教育 センター	総合教育 センター
12	小中高特 養栄	1122	/(金)	研修の成果と課題	初任者研修の成果と課題についての発表と研究協議	総合教育 センター	総合教育 センター
				学び続ける教員について	ポートフォリオおよびソフォモア研修について		
				閉講式	閉講式 所長講話		
13	小			授業研究会	実習校における授業研修(4回) *詳細は後日提示	実習 指定校	総合教育 センター
14	小	4月	授業研究会	実習 指定校		総合教育 センター	
15	小	5	授業研究会	実習 指定校		総合教育 センター	
16	小	12月	授業研究会	実習 指定校		総合教育 センター	
17	小			授業研究会	異校種の授業参観(1回)	依頼校	総合教育 センター